

最期まで口から食べることを支える会（SKTS） 2019年 第2回 WG 活動議事録

日時：2019年3月12日(火) 20時20分～21時20分

会場：ふれあい歯科ごとう

参加者：五島、齊藤、堀尾、吉田、佐藤(惟)

テーマ：病院で亡くなった独居男性の支援事例から（報告者：吉田かおる）

<報告内容>

■事例

79歳男性、区営住宅住まい、独居、要介護3

脳梗塞後遺症 右半身麻痺、高血圧症、アルツハイマー型認知症

H27～H28 問題行動多発 口の中の違和感⇒薬に詳しい医師の訪問診療が入るようになり穏やかに

H30.2 飲み込みが急に悪くなる⇒3か月ほどして訪問 ST を入れる

H30.3 多職種のチームとして良い雰囲気ができいていたが、医師に「栄養士を変えろ」と言われかちんとき「あなたにチームに入ってほしくない」と言ってしまった…

H30.6 脱水症状で救急搬送⇒病院の主治医より「経口摂取は望ましくない。胃ろうを検討したい。」

H30.7 ケアマネよりリハビリ病院への転院を提案⇒「うちでやるから」と拒否。

⇒STが入るようになるが話すリハビリばかりで食べる、歩くなどのリハビリはしていなかった
回復期病棟に移してほしいと依頼⇒却下される

H30.10 大学病院で検査⇒咽頭がん発見（手の施しようなし）

H30.11 八王子の病院へ転院⇒8日後にご逝去

■反省点

- ・ 飲み込みが悪い原因として病気を想定できず、スプーンの大きさが問題だと思い込んだ
- ・ 訪問診療の医師との連携を拒んだ…ありのままを話さなかった
- ・ 入院先をケアマネが勝手に決めてしまった（自分の職場に近かったが、がんに弱い病院だった）
- ・ 本人の希望していた耳鼻咽喉科の受診をさせるべきだった。STのリハを入れるのが遅かった
- ・ もっと飲み込みができる段階で外食させたかった
（4番目の奥さんに任せている中華料理屋にずっと行きたがっていたのに行かせられなかった…）

■訪問診療の先生に見せるために撮った動画視聴

- ①自宅、訪問 ST が入ったくらい
- ②救急搬送された後、病院で

<ディスカッション>

- ・ ご本人は訪問診療の先生に「耳鼻科に行きたい」となぜ言わなかったのか…⇒先生を立てていたのではない。ケアマネも毎回同席していたが相談していなかった。機嫌が悪くても先生が来ると急に態度が良くなっていた。とても信頼していた。
- ・ 食べるものは？ ⇒おじやや納豆など
- ・ 脱水で何度も救急車を呼んでいた…もしかしたら飲み込みがしづらかったのではないか

- ・ ケアプランがすごい。配食ではなく調理⇒年金が月 4 万で配食は足が出てしまい無理だった
- ・ 飲み込みが悪くなった時点でリハビリは難しい…ST が早く入っていても変わらなかったかもしれない。その前の口の違和感の時点で発症していたのではないか
- ・ 「どんどん体重が減ってきた」というときにリハビリを入れてはいけない。「リハ栄養」の時代なのに栄養のことを考えずにリハビリするとどんどん弱ってってしまう
- ・ 1 年で 10 キロ減っていた…H29 年 3 月頃から？ 栄養士さんが入っていたからその辺は気付いたんじゃないか。けっこう食べてはいたが…おじやだからカロリーが落ちていた。
- ・ 入院後は絶食…「中華料理屋に行きたい」と言っていたが行けなかった。入院中に何とか実現することはできなかったらうか。
- ・ つなげるべきところにちゃんとつなげられれば早く気付くことはあったかもしれないが…今のよう新食研でいろんな職種の人に相談できるといろいろ案が出たかもしれない。
- ・ 「家に帰りたい」と言っていたのに帰れなかった…介護する家族もいなかった。明確な意思表示もあったが。
- ・ 入院してからは大好きだったテレビも付けず…⇒体力が無くなっていたのではないか。
- ・ 在宅でのケアチームの構成は誰が考えるか…基本はケアマネだが。主治医にチーム編成の事を言われてしまうと対応に困るのでは。

<論点まとめ>

- ・ 問題行動があると調整が大変…でもみんなから愛されていた。
- ・ 体重変化、栄養状態を早めにわかっていると良かったかもしれない。
- ・ こういうケースは仕方がない。ケアマネはすごく良くやったと思う！
- ・ デイサービスで体重を測ってはいるが、みんな過去からの変化を見ていない
⇒そこで「食べるデイテスト」
- ・ 新宿じゃなかったら、こんなにたくさんのサービスを入れるのは難しい。横浜ではちょっと見たことがない。たくさんの人に関わってもらえて本人にとっては幸せだったと思う。訪問診療の先生を入れたくても近くにいないという地域もある。

<次回予定>

日 時：2019 年 4 月 16 日（火）20 時 00 分～

場 所：ふれあい歯科ごとう

発表者：五島先生